

ごみ減量化・資源化新システム モデル地区の状況について

玉川地区自治会連絡協議会
会長宮内 一男

玉川地区がごみ減量化・資源化新システムのモデル地区に指定され、昨年10月6日にスタートしてから約6ヶ月が経過しました。事前の説明会等で概ね理解はしていたものの、実施に移ると、1月位の間かなりの混乱がありました。

従来の資源ごみ(缶、びん、ダンボール類)に相当する物に対して、もえるごみで出していたプラスチック、ビニール類等の分別がままならず、イエローカードを貼られる物が殆どでした。この為各集積所で搬出時に立会い、事細かにヒアリング等を行い、正しい分別をお願いして来ました。現在はスタートした時期に比べると驚く程分別が進みイエローカードも大変少なくなりました。この事は地域の方々のご協力による説明の効果等が目を追う毎に出て来たのではないかと考えています。

これは各家庭内での分別が進んでいる(容器等の表示を確認する習慣が定着しつつある)事だと思えます。今年10月から厚木市全体での実施となりますが、各地域、共に住民の高齢化が進む現在、集積所までの距離が遠い、道路を横断する危険性がある等の意見があり集積所の見直し(集積所を増やす、隣接する集積所の共有等)の検討をして行きたいと思えます。

森の里地区自治会連絡協議会

会長坂口 雅志

本年10月から市全域で新しいごみ減量化・資源化システムが導入される。その本格的な導入の前に、3地区区を出し、課題等の確認、解決を図り、市全域でのスムーズな導入を目的とするモデル地区事業が行われることになった。

このモデル地区に選出されれば、事前に森の里地区に於ける新システム導入時の課題を明らかにし、本年10月からは支障なく開始出来ると考えていた所、ラッキーなことに森の里地区がモ

デル地区の一つに決定された。地区内での事前説明会を数回開催し、地域住民から頂いたご意見、ご提案等も可能な限り反映してモデル地区事業を開始した。

昨年10月から実施している新システムに対しては、以下のような懸念や要望が地域内で挙がっている。

①生ごみを含む「もえるごみ」の回収が週3回から2回に減少するため、家の中に最長で4日間も生ごみ等を保管しなければならず、臭いや保管場所の問題が出てくる。

②不適切な分別の場合、シールを貼ってその旨指摘し、次回回収時まで残すが、カラスや犬・猫等が漁り、ごみを道路上に撒き散らして環境上の問題が発生する。

③ごみ等は透明又は半透明のビニール袋に入れて出すため、ビニール袋が不足する。

毎週各種資源ごみを回収するため、もえるごみの量がかかり減少している。今まではもえるごみだったプラスチック製容器包装の量は想像以上に多く、これももえるごみ減少に貢献している。

ビニール袋不足については、資源回収に伴う収益でビニール袋を購入して住民に配布することも検討している。

このように課題はあるものの、実際の導入までに各課題を検討し、一つでも多く解消するように努力したい。

相川地区自治会連絡協議会

会長大貫 英雄

ごみ減量化・資源化新システムのモデル地区に指定された時、実際に10月スタート時にスムーズに移行可能かどうか心配しました。

各地域で説明会が行われ、新システムに移行しました。地域の皆さんは戸惑いがあったが、やらなければの気持ちで強く働き6ヶ月が経過しました。

「案ずるより生むが易い」と言っている良いのでしょうか。地域の方々に積極的に協力して頂き、また収集側の職員の方の努力もあり資源量は増加しております。しかしながら一部の無関心な扱いにより収集不能袋が出ている事や、不法投棄と思われる物品の排出が減少しないという課題もあります。どのようになれば決まりが守られるのか不明なのが現状です。

繰り返し協力して頂けるよう啓発活動が続けなければ、目標である資源化率35パーセントには届きません。自治会の皆さんの知恵を頂き、全市が新システムへ移行する時には模範となるべく、地区皆さんの更なる協力を願って努力してまいりたいと思います。そして、全市揃っての新システムへのスムーズな移行を願うものです。

りますので、是非ご覧下さい。

最近マンション、アパート等が増加し、これらの居住者の方々の自治会への加入が少ないことが指摘されております。様々な方法で加入促進を図っておりますが、なかなか加入率を高めるに至っておりません。

そこで会員の皆様にお願ひがあります。身近においでになる自治会未加入者に対して、自治会加入のお声を掛けてお誘いいただけませんか。『ふれ愛 支え愛 励まし愛』を合言葉に、地域コミュニティの絆を深め「安心安全」「元気なまち」あつぎを創っていきましょう。

更に、今年4月から市では、新総合計画がスタートします。自治基本条例制定に向けた取り組みや、WHO(世界保健機関)のセーフコミュニティの認証取得に向けた取り組みは、地域の皆様と行政の協働により目的を達成するものです。会員の皆様と共に地域力を強め、安心安全に暮らすことの出来るまちづくりを目指して参りましょう。最後になりますが、今年自治会長長を始め、役員の改選期に当たります。長い間、ご活躍され、今期でご退任となられます皆様から感謝申し上げます。

各自治会の益々の発展と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

目 標

- ◎みんなの手で育てようあすの自治会を
- ◎地域づくりは市民の民主的・自発的な活動から
- ◎行政と協働で築く豊かな地域社会

発行 厚木市自治会連絡協議会
編集 自治会連絡協議会広報部
電話 046-225-2101

自治会 第55号 あつぎ

地域社会の安心・安全の実現を 目指し地域力を強めよう

厚木市自治会連絡協議会 会長 中野 正義

早春の候、会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも自治会のために一方ならぬご理解とご協力を頂きありがとうございます。

私たち自治会は地域の皆様と共に、常に安心安全なまちづくり等のために努力して参りました。

今年度、厚木市自治会連絡協議会では、循環型社会の推進を目指して、ごみの減量化と資源化に向けた、新システムへの転換がスムーズに行われるよう、特に力を入れて参りました。モデル地区として相川・玉川・森の里地区の皆様にご協力頂きました。お蔭様でその成果も如実に現れ、全市一斉にスタートする新システムへの移行に大き

な期待が寄せられています。ご尽力頂きました皆様から感謝申し上げます。

21年10月から全市展開する新システムにつきましても、皆様の特段のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、防犯活動においてはセーフティベストを着用しての『愛の日運動』や『安全パトロール』、『防犯灯の照度アップ』により防犯意識の向上に努めて参りました。

更には民間交通監視所の設置をはじめ、諸活動が交通安全に対する意識啓発となり、事故防止に大きな成果をあげております。

防災活動では、市民防災研修会を実施し、『災害に生かせ、自治会の総力』をテーマに、新潟県小千谷市自主防災隊連絡協議会の風間久司会長による、貴重な体験談を拝聴することが出来、これからの活動に大変役立つものとなりました。

これらの身近な活動につきましては「自治会あつぎ」の中で各地区の活動を、また、厚木市自治会連絡協議会のホームページでも解り易く紹介してお



厚木市自治会連絡協議会
中野 会長

歴史に育まれた地区

公所自治会(荻野地区) 会長 中村俊一

私たちの自治会は、国道412号の旧道とバイパスが交わるところにある約70世帯の小さな自治会です。昔から、半原、津久井へ通じる街道として、人々の往来が絶えない道筋で、県史の経済的大動脈であるといえます。その傍らで、私たちは日々の暮らしを送っています。周辺に比べて、昔からあまり世帯数の変わらない地区で、自治会の活動も地道に行われています。

地域で行われる一斉美化清掃や年中行事の盆踊り、防災総合訓練等は地域の人たちが集まり、ふれあいの機会になっています。のどかな田園地帯が残されており、鹿や野猿の被害も今のところ免れています。農業に従事されている方の話では、他の地区同様、鳥獣の被害がよく話題にのぼります。周りの地区に目を移しますと、本郷地区では荻野公民館の新築工事が始まり、荻野川のほとりにある広町公園では、水辺創出工事も進み、自ずとその姿を変えつつあります。荻野運動公園から川沿いに下りますと広町公園の傍らにあります戒善寺には明治の自由民権家の志士たちの墓が



川沿いの桜並木

あります。数年前「自由民権の里」として記念碑が建立されました。さらに下って行きますと、山中陣屋跡史跡公園が枘割地区のバイパス側にあります。夏祭りや盆踊りに「荻野音頭」の曲がかかりますと、「公所や枘割なごりの名前」と郷土の歴史にその名を残している土地柄です。川沿いや田畑には、季節の野鳥たちが飛び交い、スナップ写真に残しておきたい風景など、開発工事の傍らで昔の姿を止めた自然豊かな住みよい環境を創り育てるところから、自然と調和した快適な生活が実現されていくことと思います。散策をかね、自然観察や郷土の歴史を訪ねると、とても興味深い地域です。

「泊お山修行」ってなんだ?

下古沢下分自治会(小鮎地区) 会長 本杉貴生

青少年の健全育成については、次の社会の担い手を育てるとい意味で、いつの時代、どの社会においても最も重要な課題の一つであり、家庭・学校・地域社会がそれぞれ分担したり協力し合ったりして進められています。自治会としても祭りやどんど焼き等の行事に加え、防犯や交通安全等、青少年を見守り育てる取り組みを実施しておるところです。にも関わらず、この課題にはいつも更なる幅広い取り組みの強化が求められています。

そのような視点で私の地域を見たとき、特筆すべき取り組みに出会います。それは地元の「お寺さん」の行っている「一泊お山修行」です。お寺さんというのは、常栄山本照寺という西暦一五〇〇年開山の日蓮宗の古刹です。地域の多くの方はこの寺の檀家です。この本照寺の「一泊お山修行」は毎年夏休みに小・中学生を対象に実施されます。現任職の須藤教裕さんが住職になられてから始められ、今年で11回目を迎えます。参加者も年々増え前回は45人の参加となりました。異なる年



住職を囲んでチーズ (詳しくはホームページ、厚木本照寺で検索できます)

齢の子ども達が、集団で寺に泊まり、寝食を共にし、様々な体験をして二日間を過ごします。その中で学んだり感動したりしています。体験の内容は、宗教に拘らず、地域を巡るウォークラリーで頭を使ったり、スポーツで体を動かしたり、温泉に入ったり、花火を見たり、住職の話や聞いたり、色々工夫されています。私はここに青少年健全育成の宗教人からのアプローチを見ることができ、な取り組みは、目にすることが少なく、この本照寺の「一泊お山修行」には注目し、感謝もしております。青少年の育成には、まだ協力頂ける個人や組織は豊富にあると感じます。幅広い視点で力を結集させ、この課題に向き合っていきたいと思っています。

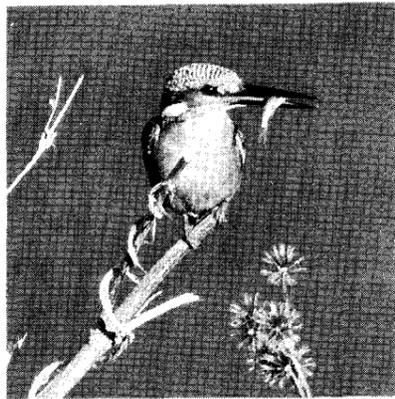
誰もが気軽に参加できる自治会を目指して

小野地区自治会(玉川地区) 会長 宮内一男

小野地区は5つの自治会(岩田・町屋・竹の内、川野・桂木、堀合、中屋、榎田・桐山、上村・神明前)総戸数410戸から成っています。その中央あたりに一級河川の玉川が流れ、各自治会はこの玉川を挟んで位置しています。また玉川には、小魚を求めてかわせみを始め驚等多くの水鳥が生息し、春先には両岸に桜、梅雨時には100本以上の紫陽花が次々と満開になります。一年を通して早朝から多くの人がジョギング等を楽しんでいます。

この他小野地区には古くからの歴史が伝えられる小野神社や、小野小町が祭神と伝えられる小町神社があります。次に、地区自治会の活動について紹介致します。春の小町山桜祭りに始まり、玉川河川の草刈、盆踊り大会、防災訓練、大運動会、公民館祭りの参加等があります。

この間に地域組織(子ども会、消防団、しあわせクラブ(老友会)等)とのコミュニケーションを心掛けており、特に昨年の盆踊り大会では子供太鼓用のユニホームを作り子ども達による小



玉川のかわせみ

野太鼓を披露して皆に好評でした。この他地元企業との交流(情報交換等)も定期的に行っています。更に地域施設の活性化を図り岩田山公園の再利用を市に提案して新たにグラウンドゴルフ、ドッジボール等出来る様整備して貰う事になりました。今後は、多くの人達が利用する事で、一段と地域の活性化と防犯活動に役立つことを期待しています。これからも一層地域の方々とふれあい、その中でも特に若い方達の意見を参加を促し少しでも自治会の若返りを図る必要があると思いますので、皆で誰もが気軽に参加出来る自治会を目指して、努力していきたいと考えております。終わりに、文頭で小野地区のPRをしましたが是非一度足を運んで頂き、季節毎にその感触を味わっては如何でしょうか!

「ふれあい・たすけあい」わかちあい

恩名地区自治会連合会(南毛利地区) 会長 横谷正春

恩名地区は、厚木市街地に隣接し生活には便利な地域です。自治会は昔から恩名上・下・原・横町で連合会を形成し活動をしておりましたが、平成17年11月に住居表示の変更が実施され、地域の呼び名も恩名一丁目から五丁目と変わりました。平成19年4月から新たに丁目毎に自治会を組織し恩名地区自治会連合会として様々な活動をしております。地域に住む人たちが一人でも多く、ふれあい、わかちあえるように、賀詞交換会から始まり、お祭り、自治会協力団体役員交流会、ふれあい大運動会、納涼盆踊り大会、敬老慰安会、どんど焼き、餅つき大会、ゆめクラブ等を季節毎に実施しております。

恩名地区の特色は、各団体が諸事業の企画から運営まで担当し、他の団体や有志に協力要請をして、コミュニケーションを図るとともに、お互いに繋がりをもち、地域の仲間の輪を広げております。特に敬老慰安会は、昭和47年9月に有志の方が手作りの食事と地域の方々への踊りや芝居、民踊等で、高齢者の方々に楽しんでいただくこと



善行賞受賞報告、市長室にて

実施され、今年で36回を数えました。このことが社会福祉活動に貢献したと評価され、「社団法人・日本善行会」より平成20年11月21日に明治神宮参集殿において表彰されました。これらは、先輩諸氏のご尽力をはじめ、各種団体、隣組長や自治会員の協力のおかげで実現しております。また、地域の防犯や児童、生徒の登下校の安全のため、防犯パトロールを昼間、夜間と実施しており、若いお母さんと福寿会(老人会)の方がペアで巡回する等「安心・安全の地域づくり」に取り組みと同時に「世代間交流の場」としても生かされています。これからも恩名地区自治会連合会は「ふれあい・たすけあい・わかちあい」をスローガンに、地域の人々の連携の輪を広げていきたいと思っています。